

ハライソハットの材

杉

スギ：ヒノキ科杉属

**建築材を中心に幅広く使われてきた
日本の針葉樹を代表する木**

大地からまっすぐに伸びる性質により、木目がまっすぐではっきりしている。柔らかいため加工がしやすく、乾燥も容易扱いやすい。辺材は淡い黄色。芯材は桃色と差がはっきりしていて、源平と言われる赤身と白太が縞になった材も取れる。植林が盛んに行われてきたため、有名な産地の杉には地名が冠され、秋田杉、天竜杉、北山杉、吉野杉、智頭杉などがある。気候、土壌、育林方法などの違いから、地域によって木目や色合いなどに差が出るのも杉の魅力の一つになっている。

使用箇所：構造材/目板（外壁）/木枠

榎

サワラ：ヒノキ科ヒノキ属

**針葉樹材のなかではもっとも軽くて
水湿にすこぶる強い木**

国産針葉樹のなかではもっとも軽くて柔らかい樹種と言われる。さっぱりしてクセがないことから、榎の名は「さっぱりした」という言葉の意味からきている。耐水性に非常に強いことから、水桶、風呂桶（浴槽）、水回りの様々な道具などの用途に昔から使われてきた。またヒノキのような香りはせず、無臭の材なので味覚に関係する寿司桶やおひつにも重宝されている。

使用箇所：外壁、天井/洗面化粧台（天板）

桧

ヒノキ：ヒノキ科ヒノキ属

**独特の香気を放ち
寺院建築にも用いられた良材**

火が起こせるほどよく乾くことから「火の木」と呼ばれ、それが転じた名前。内部まで乾いて狂いが生じにくいから古くから建築適材とされてきた。芯材と辺材の差はあまりなく、上品な色味と控えめな表情をしている。法隆寺、東大寺など飛鳥時代や奈良時代に建立された寺院にもよく使われている。また、耐水性と耐久性を生かした「ヒノキ風呂」も知られる。

使用箇所：土台/階段（段板）

栗

クリ：ブナ科クリ属

**縄文時代から活躍する
優れた耐久性・保存性を持つ材**

環孔材らしい、年輪のはっきりした木目。芯材は黄土色、辺材は白っぽく、違いがはっきりしている。水に強く耐久性があり、暴れや割れが少ない。また、成長が遅いため、現在では希少な材。縄文時代の遺跡から、建築物の土台として使われてきたクリ材の痕跡が出土している。いまでも、重くて硬く粘りがあるという性質を利用し、家の土台として使われることが多い。

使用箇所：床（1F）/柱/木枠/梁階段（段板）

欅

ケヤキ：ニレ科ケヤキ属

**広葉樹でもっとも建材に向き
力強く美しい木目が魅力の木**

空に向かって大きく枝を張り出す立ち姿の美しさ、実用性と木肌の見栄えのよさを兼ね備えた材。広葉樹を代表する木の一つである。黄色味を帯びた艶のある材は力強い美しさがあり、上がり框や床の間など化粧性を重視する造作材に向く。長い年月に耐えられる強さと木目の美しさから社寺建築にも数多く使われてきた歴史をもつ。清水寺などの京都の寺にはケヤキ造りの建物が多い。

使用箇所：梁/階段（段板）

桜

山桜

サクラ：バラ科サクラ属

**耐水性が高く、木肌が滑らかで
浮世絵版木や菓子型に使われる材**

程よい硬さで粘りがあり、暴れが少なく木肌は滑らか。芯材は赤褐色、辺材は淡黄褐色、違いがはっきりしている。時間が経つと色に変化していく。加工性が高く、磨くと艶のある光沢がでて、桃色になる色調も美しく、家具をはじめ様々な用途に使われてきた。浮世絵や経文などの版木、和菓子の型などに重用される。

使用箇所：梁/階段（段板）

松

赤松

マツ：マツ科マツ属

**梁などの建築材に使われてきた
昔から日本人になじみの深い木**

日本で建材に使われるのは主にアカマツ、クロマツ。アカマツは硬くてねじれるくせがあるものの、強度はある。水湿に強く、耐久性があり保湿性もある。生活に身近な木として丸太梁などに使われていることが多い。アカマツは樹皮が赤く、葉は細くて柔らかみあり触っても痛くない。クロマツは樹皮が黒っぽく、葉はやや太くて硬い。このような違いからアカマツが雌松、クロマツが雄松の別名をもつ。

使用箇所：床（2F）/階段（段板）

樅

モミ：マツ科モミ属

**特殊な用途に活用される
白い木肌と匂いが少ない材**

木肌は白っぽく、脂分が少ないため鉋の刃をよく研いでおかないと削りにくい。年輪ははっきりとしていて、幅の広いものが多い。木目はまっすぐ。調湿性に優れ、抗菌性があるため、かまぼこの板、割り箸など身のまわりの生活用品に用いられている。また、神聖なものには白の色合いが向いているため、葬祭具、木棺などにも使われている。諏訪大社の御柱祭りの御神木にも使われている。

使用箇所：階段

吉野杉

ヨシノスギ：ヒノキ科杉属

**年輪が緻密で均一
色つやも美しい高級材**

節が少なく、年輪が緻密で均一。芯を中心にまっすぐ伸びている。色つや、香りがよい。年輪の幅が狭くなり、強度も高くなるように一般的には1ヘクタールあたり2000~3000本の植林に対してその3倍以上植えるのが吉野流。こうすることで1本の苗に行き渡る栄養分を制限し、何度も間伐を繰り返すことにより均一な成長を促せる。これにより美しい年輪ができあがる。

使用箇所：下駄箱（天板）/寝室カウンターテーブル